

令和3年度 葛飾区学力調査（5年生）結果の分析

【国語】

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点において、区の平均を上回っている。特に、応用問題については区の平均を10ポイント近く上回っており、設問に正対し既習事項を生かして問題に取り組めたことが伺える。
- 「言葉・情報・言語・文化」の領域では、平均正答率が全国、区の平均よりも上回った。日々の授業における漢字学習や家庭学習における効果が出ている。
- 「書くこと」の領域では、平均正答率が全国、区よりも6ポイント以上上回っている。登場人物の心情を読み取り、指定された形式で記述したり、文章を読んで文脈に合う文章を記述したりする力が伸びていることが伺える。
- 「読むこと」の領域では、平均正答率が全国、区よりも5ポイント以上上回っている。段落相互の関係を読み取り、文章の構成を理解することができた。また、話し合いを行っている文章から、前後の内容を読み取り、間にどんな言葉が入るのかを推察することができていた。
- ▲「話すこと・聞くこと」の領域では、平均正答率が区の平均より1ポイント上回っているものの、全国平均を0.6ポイント下回っている。日常の学習において、話の要点を意識しながら聞いたり、相手の意図をとらえながら聞いたりすることを繰り返し指導していく。

【算数】

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点において、区の平均を上回る結果となった。特に、「思考・判断・表現」においては、7ポイント以上上回った。
- 「数と計算」の領域では、平均正答率が全国や区よりも上回った。特に、整数・小数の計算について前学年までの知識・技能が身に付いていることが伺える。数直線の読み方や、四捨五入による概数表記についても数の大きさや数の構成について既習事項を生かし問題に答えることができています。
- 「図形」の領域でも、平均正答率が全国や区よりも上回った。図形を構成する要素の関係に着目し、面積の求め方等を理解した上で正しく計算ができています。
- 「変化と関係」の領域でも、平均正答率が全国や区より上回った。表を用いて変化や対応の規則性を見出し、その規則性が他の数値の間においても成り立つのか確かめて問題に取り組んでいる。
- ▲「データの活用」の領域では、平均正答率が、区の平均は上回っているものの全国の平均からは1ポイント下回る結果となっていた。問題を解く上でグラフをどのように用いていくのか再度確認し、グラフを読み取った上で問われている内容の答えを導けるよう指導していく。